

TP（ティーチングポートフォリオ）チャート電子媒体の有用性

阪上彩子（立命館大学）、谷川依津江（甲南大学）

Effectiveness of Digital Portfolio of TP chart for Language Teachers

Ayako SAKAUE、 Ritsumeikan University Itsue TANIGAWA、 Konan University

要旨：本研究は、ポートフォリオの活用方法をまとめ、TP チャートワークショップの実践を通して、TP チャートを作成する意義と電子媒体のポートフォリオの有用性を明らかにすることを目的とする。その結果、ワークショップ参加者のうち、90%が TP チャート作成に満足したと回答し、教育活動を客観的に言語化できたこと、教育活動と理念の結びつきについて気づけたこと、エビデンスの重要性などが確認できたと述べている。また、電子媒体の TP チャートの利点は、他人と共有しやすく、更新しやすいことなどが挙げられる。

キーワード：ティーチングポートフォリオ、TP チャート、エビデンス、電子媒体

1. 本研究の目的

学習者は自ら学んだことについて授業中に振り返りの時間が設けられるなど振り返りを行う機会があるが、教師はどのように振り返りを行っているのだろうか。自らの教育活動を客観的に振り返る手段として、ティーチングポートフォリオの作成がある。

著者らは語学教員対象に 2020 年からティーチングポートフォリオ（TP）チャート作成ワークショップを行っている。オンラインでは、紙媒体ではなく、スライドを使用して電子媒体の TP チャートを作成している。

本研究の目的は、ポートフォリオの活用方法をまとめ、TP チャートワークショップの実践を通して、TP チャートを作成する意義と電子媒体のポートフォリオの有用性を明らかにすることである。

2. ティーチングポートフォリオの作成

2.1 ポートフォリオについて

ポートフォリオとは、横溝 1999 によると、「教育目的に沿って収集した学習者の学習成果のコレクション」と定義されている。日本語教育の分野で使用されているポートフォリオは、青木 2006 の『日本語ポートフォリオ改訂版』や早稲田大学の『日本語学修ポートフォリオ』がある。これらは学習者向けの紙媒体のポートフォリオであるが、PDF も公開されている。他分野のポートフォリオと大きく異なるのは、ヨーロッパ言語ポートフォリオ（European Language Portfolio：以下「ELP」）を参考にしているところだ。

現在、日本の大学では、Learning Management System を利用しており、そのポートフ

ォリオ機能を利用することが多い。これは、学習者が学習成果物やその評価を電子媒体で記録できるものであり、e ポートフォリオとも呼ばれる。

2.2 ティーチングポートフォリオについて

ティーチングポートフォリオとは、自らの教育活動について振り返り、その自らの記述をエビデンスによって裏付けた厳選された記録と定義しており、A4 判で 8 ページから 10 ページほどの本文とエビデンスから構成される文書のことである（セルディン 2007）。日本語教育の分野では、小玉 2007、近藤 2014 等が日本語教師研修に利用したと報告している。また、加藤 2014 は、国内外の日本語教師対象の研修に電子ティーチングポートフォリオを利用している。ここでは、電子媒体を利用することで、同じ場に集まらなくても一緒に研修を受けることができるという利点がある。

また、カーン 2007 は、電子的ティーチングポートフォリオの利点についてまとめている。ここでは、電子媒体のポートフォリオではなく、e ポートフォリオの利点を述べている。e ポートフォリオを利用すると、教育改善の効果が 3 点あるとのことである。

- (1) 教育実践の公開性の増大：インターネットで多くの人のアクセスを容易にする
- (2) 教育実践の透明性の確保：音声などの資料やオンライン教育実践も取り込む
- (3) 教育成果の効果的な発信：マルチメディアなど豊かな資料を提供する

ただし、ティーチングポートフォリオに過剰な情報を取り込みすぎること、ICT を得意としない教員にとっては難易度が高いことや著作権やプライバシーの問題に関わることは注意が必要だとも述べている。

本研究で取り上げる電子媒体のポートフォリオは、e ポートフォリオではなく、紙媒体を電子化したものであるため、難易度はそれほど高くなく、過剰な情報を取り込みすぎることという問題もない。5.で電子媒体のポートフォリオの利点と課題について詳しく述べる。

2.3 TP チャートの作成方法

TP チャートは、教育活動の俯瞰と振り返りを行い、授業改善につなげることを目的とした A3 判のワークシートで、個人の教育活動を視覚的に整理でき、自己省察によって俯瞰できること、また短時間で作成が可能なこと（栗田ほか 2018）が特徴である。

TP チャートのワークシートは、①責任、②改善・努力、③成果・評価、④方法、⑤方針、⑥理念、⑦目標の 7 つの欄に区切られている。また上部には作成者の氏名、TP チャート作成の目的、そして TP チャート作成後に感想を記入する箇所が設けられており、作成前に目的を意識することで TP チャートの作成が漫然とした作業にならないようにという工夫がされている（図 1 参照）。

ワークショップではファシリテーターの指示のもと、まずは①～③の欄の項目に関わる事柄を、それぞれ 2～5 分の定められた時間内に順に書き出していく。例えば責任の欄に

は、基本的に直近1年以内に自らが行った教育活動と思われるものを1つの付箋に1つずつ書き、その記入した付箋を貼り付けていく。責任に書き込んだ事柄は自らの教育活動を振り返る材料に、改善・努力は自らの努力を可視化することで前向きな気持ちになる助けに、そして成果・評価を書き出すことで今の自分を知るきっかけとなる。

題名 名刺	作成 目的	感想	日付
責任	理念	目標	
	方針	方針	
	方法	方法	
	改善・努力		
	成果・評価		

「この付箋が書かれてある
事柄は、自分の教育活動
の振り返り材料として
活用してください」

図1：TP チャート

①～③が書き終わったところで、ワークショップではペアとなる他の参加者とそれぞれのTPチャートを見せ合い、自己紹介を行う。その後再び④～⑥の欄を順に埋める個人作業に戻る。方法の欄には、いつも行っている方法や重要だと思って行っている方法を付箋に書き出していく。ここで重要なのは「心がけている」というような考えや姿勢ではなく、実際に行っている「行い」について書いていくことである。方針の欄では、「なぜその方法を行っているのか」という理由を書き出し、理念では「なぜその方針をとっているのか」の理由を考える。一つの理念、方針に対して複数の方針、方法がとられることもあるので、その場合にはそれぞれの付箋を移動してグルーピング化する。ワークショップでは④～⑥の欄をそれぞれ7分で記入した後、再びペアでその内容を共有し、理念を達成するためにどのような方針、方法を用いているかを説明し合う。このように具体的な「行い」を書き出すところから始め、一つ一つを振り返る形で、心の中にある理念を見出していくステップをTPチャートを用いて可視化することができる。

6つの欄の記入後、①～④の欄の事柄に関して、それを裏付ける根拠、エビデンスと呼ぶ、の有無、ある場合には何がエビデンスとなるのかを考え、小さい付箋に書き込み、対応する付箋に貼り付けていく。

ウェブ上で公開されている作成動画を見ながら1人で作成することは可能だが、ワークショップなどで基本的にだれかと一緒に作成することが推奨されている。それは、自分で

作成しながら、TP チャートについて相手に説明したり、質問されて答えたりするなかで、さらに、考えを深めることができるからである。デジタル媒体の TP チャートはスライド 1 枚で作成する。

3. TP チャートワークショップの実践

発表者らは、TP チャート作成ワークショップを、2020 年 1 月、5 月、10 月、11 月、12 月、2021 年 1 月、2 月、3 月、4 月、5 月と計 10 回開催した。教室でのワークショップは、2020 年 1 月のみで、それ以外はオンラインでの作成ワークショップである。作成ワークショップの所要時間は 2 時間半である¹⁾。1 人で作成し、振り返る時間と、ペアで作成している TP チャートを振り返る時間が設定されている。

オンラインワークショップでは、zoom でつなぎ、グーグルスライドで TP チャートの作成を試みた。ペアで話し合う時間は、ブレイクアウトセッションを利用した。

各ワークショップ参加者は 4 名から 16 名で、多くは日本語を教えている。10 月から 2021 年 3 月までのワークショップ参加者は、主に「TP チャートを作成したい」、「自分の教育活動を振り返りたい」という目的をもって参加している。参加者の半数は 10 年以上の教育経験があり、TP チャートをすでに作成している参加者も 5 人いる。

4. 日本語教師にとっての TP チャートの作成意義

10 月以降ワークショップ参加者対象に質問紙調査を行った。回答者は 23 名である。

質問紙調査の結果、ワークショップについて 90%以上の参加者は満足していた。また、その理由は、「教育活動を客観的に振り返ることができてよかった」、「考えていることを言語化できてよかった」、「エビデンスの大切さについて学んだ」とのことである。

今回の TP チャート作成で気づいたことから、日々の授業改善に生かしていきたいと考えている人が 90%以上いた。このことより、日本語教師にとって TP チャート作成することは、日々の教育活動を客観的に振り返り、日々の授業改善に活かすことができることが明らかになった。

さらに、質問紙調査の回答者のうち同意を得られた 6 名を対象に、15 分程のフォローアップインタビューをオンラインで行った。その結果、「パートナーと話し合う時間がよかった」「自分が考えていた理念と活動がつながっていないことに気が付いた」「深く考えていない毎日のクラス活動が実は理念と結びついていてよかった」などの意義を聞くことができた。また、今後どのように TP チャートを利用していきたいかという質問については、「所属機関に持ち帰って、同僚と一緒に TP チャートを作りたい」「クラスティーチングをしている同僚が行っている活動の意味などを知るために、それぞれ TP チャートを作成して、それを見せ合いたい」「所属機関の長に見せ、自身の目標、プランなどを話すのに使いたい」などと答えていた。

5. 電子媒体の TP チャートの有用性

ワークショップ参加者のうち、紙媒体、電子媒体両方 TP チャートを作成したことがある参加者に質問紙調査を行った。質問項目は、紙媒体と電子媒体の TP チャートの違い、それぞれの利点についてである。その結果を表 1 に示す。

表 1：質問紙調査結果：紙媒体とデジタル媒体の利点

紙媒体の利点	デジタル媒体の利点
・手書きなのでじっくり考えながら作り上げていけるので、思考が深まる ・常に目の前に飾っておける ・作業が早い ・全体を俯瞰しやすい（デジタルだと重くなって見にくい）	・字が読みやすい ・自由に後で動かせる（紙の付箋ははがれる） ・紙が無駄にならない（コストが安い） ・保存も簡単で、過去のものと比較しやすい ・オンラインとの相性がいい ・違う場所から共有できる ・記入する時間がかからない

紙媒体の TP チャートと比べ、電子媒体の TP チャートは、「字が読みやすい」「保存しやすく、過去のものと比較しやすい」「オンラインワークショップとの相性がいい」などの利点があることが分かった。

「字が読みやすい」ことは、紙媒体よりほかの人と見せやすく、他人と共有しやすいことと利点につながる。4. のインタビューで、参加者が同僚や所属機関長に見せることができたと言っていたが、これも電子媒体の利点と言える。

「保存しやすい」ことは、電子媒体は前のファイルをそのまま利用することができるので、更新しやすく、古いものと比較もしやすい。そもそも、TP チャートは更新を続けることが重要であるため、新しいバージョンが作りやすいというのは、大きな利点と言える。

「オンラインワークショップとの相性がいい」ことについて、紙媒体が電子媒体になったが、ワークショップ中の進行について、特に大きな変化は見られない。ただオンラインでワークショップを開催したことで、日本国外に住む日本語教師が参加することができた。日本国外で日本語教師をしていると、孤立環境で教えており、自分の指導方法、教育理念に不安に思う場合もある。しかし、オンラインでこの TP チャートワークショップを開催することによって、似たような環境の教員とつながることで、自信につながったとインタビューで回答した参加者もいた。

6. おわりに

以上、本研究は、作成ワークショップの実践を通して、日本語教師が電子媒体の TP チャートを作成することの意義を明らかにした。参加者は、TP チャート作成に満足し、教育活動を客観的に言語化できたこと、教育活動と理念の結びつきについて気づけたこと、エビデンスの重要性などが確認できた。また電子媒体の TP チャートは、他人と共有しや

すくなり、更新しやすくなったことなどの利点が挙げられる。

参考文献

- 加藤由香里. 2014. 「日本語教師の実践交流コミュニティによる専門的成長の支援」『教育メディア研究』20 巻 2 号. 35-44. 日本教育メディア学会.
- 栗田佳代子. 2009. 「評価結果を教育研究の質の改善・向上に結びつける活動に関する調査研究会報告書 日本におけるティーチング・ポートフォリオの可能性と課題-ワークショップから得られた知見と展望」大学評価・学位授与機構.
- 栗田佳代子・吉田壘・大野智久. 2018. 『教師のための「なりたい教師」になれる本!』学陽書房.
- 小玉安恵・木山登茂子・有馬淳一. 2007. 「外国人日本語教師教育へのポートフォリオ評価導入の試みー17年度長期研修 B コース教授法クラスにおける実施報告ー」『国際交流基金日本語教育紀要』3 号、95-111. 国際交流基金.
- 近藤裕美子. 2015. 「教師ポートフォリオ作成ワークショップー自律的、主体的に学ぶ教師の支援を目指した教師研修のデザイン」『国際交流基金日本語教育紀要』11 号. 113-125. 国際交流基金.
- スーザン・カーン 2007. 「電子的ティーチング・ポートフォリオによる優れた教育活動の共有」ピーター・セルディン編. 大学評価・学位授与機構監訳・栗田佳代子訳. 『大学教育を変える教育業績記録』38-54. 玉川出版部.
- ピーター・セルディン. 2007. 「ティーチング・ポートフォリオとは」ピーター・セルディン編. 大学評価・学位授与機構監訳・栗田佳代子訳. 『大学教育を変える教育業績記録』2-5. 玉川出版部.
- 横溝紳一郎. 1999. 「学習者参加型の評価法」『平成 11 年度日本語教育学会秋季大会予稿集』、40-47. 日本語教育学会.

参考資料

- 青木直子. 2006. 「日本語ポートフォリオ改訂版」
https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kyoiku/seikatsusha/h24_nihongo_program_a/pdf/a_53_1.pdf 2021 年 6 月 21 日参照
- TP チャート作成動画 <https://kayokokurita.info/post-578-2.html> 2021 年 6 月 12 日参照
- 早稲田大学日本語教育研究センター. 「早稲田大学日本語学習ポートフォリオ」
<https://www.waseda.jp/inst/cjl/assets/uploads/2019/03/portfolio.pdf> 2021 年 6 月 21 日参照

ⁱ ただし 2020 年 3 月、4 月、5 月は TP チャート作成動画を見て、名前と責任をスライドに書くことという事前課題を出したため、所要時間は 2 時間である。